

香川県埋蔵文化財センター年報

平成18年度

2008.2

香川県埋蔵文化財センター



別宮北遺跡・別宮北古墳群 1号墳の埴輪出土状況（南西から）



鹿伏・中所遺跡 検出した様々な土器棺

はじめに

香川県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、その保存と活用を図り、県民の文化的向上に資するため、昭和62年11月1日に設置されました。

平成16年度からは財団法人香川県埋蔵文化財調査センターの事業を引き継ぎ、埋蔵文化財の発掘調査、整理作業、報告書刊行、出土品の保管・管理、普及啓発事業を実施しております。

平成18年度の発掘調査事業は、国道整備事業や県道整備事業に伴って、9遺跡で22,364㎡の発掘調査を実施いたしました。また、整理・報告事業では、国道整備事業や県道整備事業等に係る発掘調査の出土品を整理し、順次報告書を刊行して、調査成果の公表を行ってまいりました。

普及・啓発事業は、当センター第1展示室で常設展示を行うとともに、第2展示室で「埋蔵文化財発掘調査速報展」を5回開催するとともに、出土品を地元で公開する「ふるさと展示」を7回開催したほか、3回目となる四国の埋蔵文化財センター合同の巡回展「発掘へんろ～遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波～」を四国各県で開催いたしました。また、広報誌「いにしへの讃岐」や研究紀要の刊行のほか、小学校への出前授業や考古学体験講座等を通じて、埋蔵文化財調査事業の周知を図りますとともに、埋蔵文化財の保護意識の普及・啓発に努めてまいりました。

このたび、これらの事業概要をまとめた平成18年度の年報を刊行いたしました。この年報によって、香川県埋蔵文化財センターの活動が広く周知され、埋蔵文化財を活用するための一助となれば幸いです。

最後になりましたが事業の実施に際しまして、ご指導、ご協力をいただきました関係各位に心からお礼を申し上げますとともに、当センターの運営につきまして皆様方の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます、ごあいさついたします。

平成20年2月

香川県埋蔵文化財センター

所長 渡部明夫

本文目次

I 平成18年度の事業概要

- 1 埋蔵文化財調査事業 1
- 2 普及・啓発事業 2

II 埋蔵文化財調査事業

- 1 国事業に伴う発掘調査事業 3
 - 俊正遺跡 5
 - 別宮北遺跡・別宮北古墳群 7
- 2 県事業に伴う発掘調査事業 9
 - 川原遺跡 11
 - 川島本町山田遺跡 13
 - 木太中村遺跡 15
 - 東坂元北岡遺跡 17
 - 津森位遺跡 19
 - 高屋条里遺跡 21
 - 家の浦遺跡 23
- 3 整理・報告事業 25

III 普及・啓発事業

- 1 展示 27

2	現地説明会・現場見学	30
3	講師の派遣	32
4	坂出市立府中小学校との連携事業（「よろこび学習」）	32
5	夏季休業中の児童・生徒の社会科の課題への助言事業 （「夏休み自由研究サポート110番」）	36
6	発掘調査体験学習（「Getだぜ！ドキドキ夏休み ～考古学を味わう夏～」）	36
7	広報誌の刊行	37
8	文化ボランティア活動	38
9	資料の貸出・利用	39
10	研究紀要の刊行	39
11	新聞連載	39
12	職場体験学習	40
13	刊行物一覧	40
IV 組織・施設		
1	香川県埋蔵文化財センターの組織	41
2	施設の概要	42

挿 図 目 次

第1図 発掘調査遺跡位置図	4
俊正遺跡	
第2図 遺跡位置図 (1/25,000)	5
別宮北遺跡・別宮北古墳群	
第3図 遺跡位置図 (1/25,000)	7
川原遺跡	
第4図 遺跡位置図 (1/25,000)	11
第5図 遺構配置図 (1/800)	12
川島本町山田遺跡	
第6図 遺跡位置図 (1/25,000)	13
第7図 遺構平面図 (1/200)	14
木太中村遺跡	
第8図 遺跡位置図 (1/25,000)	15
第9図 遺構配置模式図	16

東坂元北岡遺跡	
第10図 遺跡位置図 (1/25,000)	17
第11図 遺構平面図 (1/800)	18
津森位遺跡	
第12図 遺跡位置図 (1/25,000)	19
第13図 I-2,3区 遺構配置図	20
高屋条里遺跡	
第14図 遺跡位置図 (1/25,000)	21
第15図 南調査区 遺構配置図	22
家の浦遺跡	
第16図 遺跡位置図 (1/25,000)	23
第17図 遺構平面図 (1/200)	24

写 真 目 次

俊正遺跡	
写真1 古墳時代竪穴住居跡 (北西から)	5
写真2 古墳時代掘立柱建物跡 (南西から)	5
写真3 古代末~中世大型溝状遺構 (南から)	6
写真4 近世屋敷地内掘立柱建物跡 (西から)	6
写真5 近世石積み土坑跡 (東から)	6
別宮北遺跡・別宮北古墳群	
写真6 1・2号墳全景 (南から)	7
写真7 1号墳埴輪出土状況 (南西から)	7
写真8 3~6号墳全景 (北東から)	8
写真9 馬形埴輪頭部 (2号墳出土)	8
川原遺跡	
写真10 縄文石器ブロック調査状況 (東から)	11

川島本町山田遺跡	
写真11 調査区全景 (東から)	13
写真12 SD01完掘状況 (西から)	13
木太中村遺跡	
写真13 調査地全景 (北から)	16
写真14 古代の溝状遺構遺物 出土状況 (上層) (東から)	16
写真15 中世の溝状遺構 (北から)	16
写真16 中世の溝状遺構遺物出土状況 (北から)	16
東坂元北岡遺跡	
写真17 I区低地帯遺物出土状況 (東から)	17
写真18 I区低地帯より出土した サヌカイト石器・石片	17

津森位遺跡		写真31 森の文化祭	・ ・ ・ ・ ・ 30
写真19 I-1区完掘状況(東から)	・ 20	写真32 科博コラボ(左:サヌカイトで紙を切る 右:サヌカイトを奏でる)	30
写真20 I-3区完掘状況(東から)	・ 20	写真33 現地説明会	
写真21 III-4区完掘状況(東から)	・ 20	(別宮北遺跡・別宮北古墳群)	・ 32
写真22 蛸壺出土状況(南東から)	・ 20	写真34 講師派遣(勾玉作り)	・ ・ ・ 32
高屋条里遺跡		写真35 講師派遣によるガラス玉作り	
写真23 南調査区(南半)完掘状況		(左:ガラス棒をあぶる	
(南から)	・ ・ ・ ・ ・ 22	右:溶けたガラスが丸まって玉状になる)	・ ・ ・ ・ ・ 33
写真24 袍衣壺 調査状況(南から)	・ 22	写真36 講師派遣(土器作り)	・ ・ ・ 33
家の浦遺跡		写真37 講師派遣(分銅型土製品作り)	・ 33
写真25 家の浦遺跡1区全景		写真38 坂出市立府中小学校との連携事業	
(北東から)	・ ・ ・ ・ ・ 23	(左:製塩土器作り	
普及・啓発事業		右:発掘体験)	・ ・ ・ ・ ・ 33
写真26 展示室	・ ・ ・ ・ ・ 28	写真39 文化ボランティアの活動	
写真27 展示解説会	・ ・ ・ ・ ・ 28	(左:発掘調査現場での研修	
写真28 発掘へんろ(東京国立博物館)	30	右:屋外展示)	・ ・ ・ ・ ・ 38
写真29 石野博信先生による講演会	・ 30		
写真30 ふるさと展示(まんのう町)	・ 30		

表 目 次

第1表 発掘調査遺跡一覧	・ ・ ・ ・ ・ 1	第13表 発掘調査現場見学団体一覧	・ ・ 34
第2表 整理・報告遺跡一覧	・ ・ ・ 1~2	第14表 講演・講座等への講師派遣一覧	
第3表 国事業に伴う発掘調査事業一覧	4		・ ・ 34~35
第4表 県事業に伴う発掘調査事業一覧	10	第15表 学校への講師派遣一覧	・ ・ 35~36
第5表 整理事業一覧	・ ・ ・ ・ ・ 25	第16表 坂出市立府中小学校との	
第6表 刊行発掘調査報告書一覧	・ ・ 26	連携事業一覧	・ ・ ・ ・ ・ 36
第7表 速報展一覧	・ ・ ・ ・ ・ 28	第17表 広報誌「いにしへの讃岐」一覧	
第8表 速報展展示解説会一覧	・ ・ ・ 28		・ ・ 37~38
第9表 展示室入館者数	・ ・ ・ ・ ・ 28	第18表 資料貸出・利用一覧(数字は件数)	
第10表 展示室入館団体一覧	・ ・ ・ 29		・ ・ ・ ・ ・ 39
第11表 センター外展示一覧	・ ・ 31~32	第19表 職場体験学習一覧	・ ・ ・ ・ ・ 40
第12表 現地説明会・地元説明会一覧	33	第20表 職員一覧	・ ・ ・ ・ ・ 41~42

I 平成18年度の事業概要

1 埋蔵文化財調査事業

香川県埋蔵文化財センターは県直営施設に移行して3年目となり、前年度同様に、総務課、調査課、資料普及課の3課体制で埋蔵文化財調査事業を実施した。

また、従来から実施してきた大規模発掘調査に対応するとともに、今後、大規模開発が減少する傾向が予測されることから、前年度同様に小規模調査班による発掘調査も実施した。

なお、今年度の小規模発掘調査は県道整備に伴う発掘調査を実施し、その後整理作業を行った。

(1) 発掘調査事業

今年度は大規模調査班3班と小規模調査班1班で国・県事業に伴う発掘調査を実施した。

区分	遺跡名	所在地	調査原因
国	俊正遺跡	丸亀市	一般国道32号綾歌バイパス道路改良工事
	別宮北遺跡・別宮北古墳群	坂出市	一般国道11号道路改良工事
県	川原遺跡	高松市	県道円座香南線道路改築事業
	川島本町山田遺跡	高松市	県道西植田高松線道路改良事業
	木太中村遺跡	高松市	都市計画道路福岡三谷線道路改築事業
	東坂元北岡遺跡	丸亀市	国道438号道路改修事業（飯山工区）
	津森位遺跡	丸亀市	県道多度津丸亀線緊急地方道路整備事業
	高屋条里遺跡	観音寺市	県道丸亀詫間豊浜線（観音寺工区）緊急地方道路整備事業
	家の浦遺跡	三豊市	県道大浜仁尾線道路改良事業

第1表 発掘調査遺跡一覧

(2) 整理・報告事業

国道バイパス建設、県道整備等に伴う埋蔵文化財発掘調査の出土遺物を整理し、調査報告書を印刷・刊行した。

区分	遺跡名	所在地	調査原因
国等	吉野下秀石遺跡	まんのう町	一般国道32号満濃バイパス建設
	渡池遺跡 住吉遺跡	丸亀市	一般国道32号綾歌バイパス建設
	北内遺跡 池下遺跡	丸亀市	一般国道32号綾歌バイパス建設
	羽間遺跡	まんのう町	一般国道32号満濃バイパス建設

区 分	遺跡名	所在地	調査原因
国等	西浦谷遺跡	三木町	高松東道路建設
	西原遺跡	善通寺市	一般国道319号善通寺バイパス建設
	砂入遺跡	三木町	三木郵便局建設
県	尾崎西遺跡	さぬき市	県道高松長尾大内線道路改良事業
	竹元遺跡	高松市	県道塩江屋島西線道路局部改修工事
	小山・南谷遺跡	高松市	県道高松志度線道路改良工事
	田村遺跡	丸亀市	県道高松善通寺線道路改修事業
	川島本町遺跡	高松市	県道西植田高松線道路改良事業
	川島本町南遺跡		
	家の浦遺跡	三豊市	県道大浜仁尾線道路改良事業
	川島本町山田遺跡	高松市	県道西植田高松線道路改良事業
	今津中原遺跡	丸亀市	県道多度津丸亀線緊急地方道整備事業
	弘田川西岸遺跡	善通寺市	広域基幹河川弘田川河川改修工事
	西末則遺跡	綾川町	香川県農業試験場移転事業
	鹿伏・中所遺跡	三木町	高校新設事業
空港跡地遺跡	高松市	県立図書館・文書館建設事業	

第2表 整理・報告遺跡一覧

2 普及・啓発事業

香川県埋蔵文化財センターが保管する埋蔵文化財資料について広範な活用を図るため、従前から実施していた各種の普及啓発事業を実施した。（事業の詳細は、Ⅲ普及・啓発事業の項を参照）

また、今年度も四国の5つの埋蔵文化財センターによる共同展示、四国地区埋蔵文化財センター巡回展「発掘へんろ～遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波～」を実施し、四国内を巡回したほか、東京国立博物館でも開催し、好評を博した。また、その会期に合わせ4県連携施策による講演会の開催や遺跡マップの配布も行うなど、四国の考古学情報を首都圏に向け発信した。

さらに、国立科学博物館との共同事業「科博コラボ・ミュージアムin香川 サヌカイトの秘密に迫る！」を行い、石器の魅力を県民に知ってもらうことができた。このほか、出前授業や体験講座などへの講師派遣等を行い、広報誌「いにしへの讃岐」の刊行やインターネット（アドレスは、<http://www.pref.kagawa.jp/maibun/>）による広報活動を通じて、香川の考古学情報を発信した。

II 埋蔵文化財調査事業

1 国事業に伴う発掘調査事業

平成18年度の国事業は、一般国道32号道路改良工事に伴う発掘調査を丸亀市綾歌町で、また一般国道11号道路改良工事に伴う発掘調査を坂出市西庄町で実施した。平成18年4月から19年3月までの期間で1班が調査にあたった。

丸亀市綾歌町で行った俊正遺跡の調査は、綾歌バイパス建設に伴うもので、丘陵状の台地から斜面部にいたる部分の調査である。古墳時代の竪穴住居跡群とそれに伴うと思われる掘立柱建物跡を検出している。竪穴住居跡は隅丸方形の平面プランで、その一辺にカマドが作り付けられている。作り付けのカマドをもつ竪穴住居跡の検出例は丸亀平野を中心として、吉野下秀石遺跡の例をはじめ、増加化している。

そのほか、鎌倉時代と江戸時代の遺構を検出している。坂出市西庄町で行った別宮北遺跡・別宮北古墳群の調査は、すでに供用されている国道11号から県道33号に取り付くオフランブ建設に伴う調査である。当該地は、史跡「城山」がある標高463mの城山の北麓、海拔5m付近の平坦地で、調査前の旧状は起伏のない休耕田地であった。調査の結果、埋葬施設を含めた墳丘部分が削平された古墳を6基（1～6号墳）検出した。周濠のみの検出であるが、そのなかで1号墳は円弧状に二重の周濠を巡らし、また2号墳は小規模な造出状の張り出しを持ち、周濠も明確に円弧を呈して巡らせている。ほかの4基も円墳と考えられるが、検出した遺構は、いずれの深さも20cm以内の古墳周濠の底部であり、また出土遺物も微量であった。

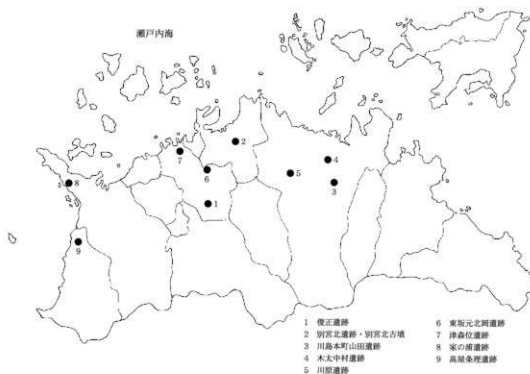
1・2号墳の周濠からは、土師器、須恵器および埴輪が出土した。2号墳からは小型の馬形埴輪が出土している。頭部には、たてがみのほか粘土帯を貼り付けて表現した鏡板や皮紐があり、また鞍部を表した破片も見られ、飾られた馬の埴輪である。これらの破片は、造出状の張り出し部を取り囲む周濠内で須恵器甕などとともに検出している。

中世の柱穴跡は、古墳群が削平された後に掘られている。田畑の開発などを目的に、大規模な造成工事が中世以前に行われたと思われる。

別宮北古墳群は、前年の試掘調査によって確認した古墳群である。この地域には、古墳時代前期の竪穴式石室を持つ古墳と古墳時代後期の横穴式石室を持つ古墳は知られていた。別宮北古墳群の調査は欠落していた古墳時代中期の資料を埋めるものとなった。

遺跡名	調査面積	調査期間	遺構	遺物
俊正遺跡	5,806㎡	平18.4 ～平18.10	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝状遺構	縄文土器、石鏃、土師器、須恵器、黒色土器
別宮北遺跡・別宮北古墳群	2,255㎡	平18.11 ～平19.3	古墳、掘立柱建物跡、溝状遺構、土坑	土師器、須恵器、円筒埴輪、形象埴輪、中世土器
合計	8,061㎡			

第3表 国事業に伴う発掘調査事業一覧



第1図 発掘調査遺跡位置図

としまさ いせき
俊正遺跡

所在地 丸亀市綾歌町岡田上・岡田下
調査期間 平成18年4月～10月
調査面積 5,806㎡
調査担当 宮崎哲治、佐々木和裕、
藤井菜穂子
調査原因 一般国道32号綾歌バイパス建設



第2図 遺跡位置図 (1/25,000)

1. はじめに

俊正遺跡は丸亀平野と四国山地の中間に広がる台地上に位置する。台地は河川の開析作用によって削られた部分と丘陵状に残った部分が交互に連続しており、遺跡は丘陵上の平坦地から斜面にかけて立地している。調査前は主に耕作地（田畑）として利用されていた。調査中に香川県教育委員会による試掘が行われた結果、丘陵斜面部の飛び地（北調査区）の保護措置が必要となり、あわせて調査を行った。

2. 調査の成果

調査の結果、古墳時代、古代末～中世、近世の3つの時期の遺構・遺物を検出した。弥生時代以前の遺物は包含層中に石鏃やサヌカイト片、縄文土器片などがわずかに見られるのみで遺構は確認していない。

古墳時代の遺構は、北調査区の丘陵斜面部において竪穴住居跡2棟と掘立柱建物跡1棟がある。竪穴住居跡は2棟とも一辺約4mの隅丸正方形を呈するもので、建物の主軸方向をそろえている。4本の主柱穴で屋根を支え、壁溝をめぐるし、建物北西辺のほぼ中央に作り付けのカマドを備えている。掘立柱建物跡は竪穴住居跡から10mほど離れて位置するもので、3×5間（約6×10m）の規模を持つ。住居跡や柱穴跡から出土した須恵器から、6世紀中～後半の年代が想定される。



写真1 古墳時代竪穴住居跡(北西から)



写真2 古墳時代掘立柱建物跡(南西から)

古代末～中世の遺構は、北調査区において掘立柱建物跡1棟、南調査区において掘立柱建物跡1棟と溝状遺構数条がある。南調査区の掘立柱建物跡は1×3間で、北側に同じ方向を持つ小規模な溝状遺構を伴っている。周辺にも同時代とみられる柱穴跡が散在しており、調査区の東に展開する集落の一角であるとみられる。南調査区南半で確認した溝状遺構は幅約2mと規模の大きなもので、途中で複数箇所の短い小規模な溝状遺構が取り付いている。これらは水田に水を給排水するための水口とみられ、溝状遺構の周辺に建物跡が全く確認できないことと合わせて、南調査区南半は水田として土地利用されていたものと判断できる。溝状遺構の底から出土した黒色土器碗から、平安時代末～鎌倉時代の年代が想定される。

近世の遺構は南調査区北半に集中している。コの字形にめぐる溝状遺構をはじめとする複数の溝状遺構、掘立柱建物跡2棟を含む多数の柱穴跡、土坑などがある。当該地は江戸時代の大庄屋であった岡田久次郎の屋敷跡に比定されており、その一角を検出した可能性が高い。

これらの調査成果の一部は、7月22日開催した「丸亀文化財の日」において一般公開し、43名の参加を得た。

3. まとめ

今回の調査では異なる3時期の集落跡を確認することができた。古墳時代の集落跡では、竪穴住居跡数棟に掘立柱建物跡が1棟というセット関係が窺え、掘立柱建物は複数の竪穴住居の共同の倉庫として使われた可能性がある。古代末～中世の集落跡は、確認できた遺構の数こそ少ないものの、水田と集落がセットで見つかった。大規模な溝状遺構は、現在においても水の安定供給が困難とされるこの地において、水を引き込むための先人たちの努力のあとと捉えることができる。近世の集落跡は大庄屋・岡田久次郎の屋敷跡の可能性が高く、屋敷地内の建物配置などを復元・推定する資料を入手することができた。



写真3 古代末～中世大型溝状遺構(南から)



写真4 近世屋敷地内掘立柱建物跡(西から)



写真5 近世石積み土坑(東から)

べっくうきた い せき べっくうきた こ ふんぐん
別宮北遺跡・別宮北古墳群

所在地 坂出市西庄町
調査期間 平成18年11月～平成19年3月
調査面積 2,255㎡
調査担当 宮崎哲治、佐々木和裕、
藤井菜穂子、中村大地
調査原因 一般国道11号建設



第3図 遺跡位置図 (1/25,000)

1. はじめに

別宮北遺跡・別宮北古墳群は古代の山城として名高い城山の北麓に位置する。周辺には古墳時代前期の積石塚、爺ヶ松古墳・ハカリゴ一口古墳、後期の横穴式石室を有する真伏古墳・醍醐古墳群・別宮古墳群などの古墳が点在している。調査地は主にJR予讃線と県道33号線に挟まれた場所で、水田として土地利用されていた。

2. 調査の成果

調査の結果、古墳時代中期末の古墳6基(別宮北古墳群)と中世(鎌倉時代)の集落跡(別宮北遺跡)の遺構・遺物を検出した。

古墳の墳形は、全形を確認した2基(2・3号墳)が円墳、残りの4基は円墳である可能性が高い。墳丘の規模は部分的な検出にとどまった6号墳を除くと、2号墳が直径約20m、次いで1号墳の約13m、3～5号墳の3基はほぼ同じ大きさで約10mとなる。墳丘外部施設は、すべて周溝を有しているが1号墳だけは2重に巡っている。いずれの周溝の中からも石材が見つからないことから、葺石は施されていないものとみられる。また、2号墳のみに造り出しが設けられている。

6基の古墳は後世の著しい削平によって埋葬施設の痕跡すら残っておらず、内部施設や副葬品に関する手がかりは一切確認できなかった。



写真6 1・2号墳全景(南から)



写真7 1号墳埴輪出土状況(南西から)

遺物に関しては、1・2号墳の周溝から円筒埴輪を中心とした埴輪片、須恵器片が出土している。埴輪は墳頂部や造り出しに立て並べられていたものが周溝内に転落したものである。円筒埴輪は円形の透かし孔を持ち、外面の調整はすべてタテハケ調整、土師質焼成である。これらの円筒埴輪に混じって少量の形象埴輪片が確認できた。1号墳では人物(手)・盾形埴輪を、2号墳では馬形・人物(手)・家形埴輪を確認している。2号墳の馬形埴輪は頭部に鏡板や面髻、胸部に障泥や鐙の表現を施した飾り馬を模したもので、造り出しを取り巻くように出土したことから、造り出しに立てられていた可能性がある。また、造り出しの南西部の周溝からは須恵器の大甕が1点出土している。1・2号墳の周溝から出土した須恵器杯・甕、3号墳の周溝から出土した須恵器壺の年代から、これらの古墳は古墳時代中期末(5世紀末)頃の築造と判断できるが、築造順序等が想定できるような遺物には恵まれなかった。

中世の集落跡は、1・2号墳の間において建物の柱穴跡、土坑を確認している。柱穴跡には板状の安山岩・サヌカイトを根石としたものもみられる。正方位を指向する柱穴列が複数うかがえることから、遺跡北方に広がる条里地割の方向とは異なる方向の建物が建っていた可能性がある。

これらの調査成果は、12月23日に地元説明会、3月3日に現地説明会を開催して一般公開し、合わせて330名の参加を得た。

3. まとめ

別宮北古墳群が築造された古墳時代中期末は、まだ海がかなり深くまで入り込んでいたといわれており、当該地は金山・城山と海に囲まれた狭い三角形の緩傾斜地であったと思われる。この地域を基盤とした首長墓には古墳時代前期の爺ヶ松古墳・ハカリゴーロ古墳(積石塚の前方後円墳)があり、別宮北古墳群の被葬者はその系譜につながる可能性もある。

古墳の削平時期については、中世の柱穴跡が1・2号墳の墳丘中央部までは至っていないことから、中世の段階では墳丘が削られ小さくなりながらも残っていた可能性が高い。土層観察からは中世以降は水田として土地利用されたことがうかがえ、集落廃絶後に水田化される際に削平を受けたものと想定される。



写真8 3～5号墳全景(北東から)



写真9 馬形埴輪頭部(2号墳出土)

2 県事業に伴う発掘調査事業

県道・県管理国道関係の調査は、県土木部が行う道路改良工事等に伴う発掘調査を県道円座香南線、県道西植田高松線、都市計画道路福岡三谷線、県道多度津丸亀線、国道438号関係、県道丸亀詫間豊浜線、県道大浜仁尾線の7事業7遺跡で発掘調査を実施した。

円座香南線では、高松市中間町の川原遺跡の発掘調査を行った。近接してある本郷遺跡とともに、平成14年度から継続して行ってきたが、今年度が最終年度である。遺構面が最近の地下げによって削平されており、遺構の数は比較的少ないが、弥生時代の水路跡などを検出している。また、弥生時代の遺構面を形成する土層から縄文時代のサヌカイト製石器が出土している。高松平野南奥部の埋蔵文化財のデータは年々増加しており、この調査結果もその一つである。

西植田高松線では、高松市川島本町の川島本町山田遺跡の調査を行った。昨年度に行った川島本町遺跡の北につながると思われる位置にあり、縄文時代後期の遺構・遺物、弥生時代前期の遺構・遺物が出土している。高松平野東南部の同時期の資料はまだまだ少なく、小範囲の調査であったが良好な資料であり、縄文時代後期の遺物を出土する川島本町遺跡と同じ性格の遺跡と判断できそうである。

都市計画道路福岡三谷線では、高松市木太町の木太中村遺跡の調査を行った。古代の溝状遺構、中世前半の溝状遺構などを検出している。古代の溝状遺構を覆う包含層からは、まとまった量の後期弥生土器が出土している。また、瀬戸内海沿岸部の各地から搬入されたと思われる中世土器が出土している。この遺跡の旧地形は、詰田川などの河川によって形成された扇状地であり、遺跡の性格も海との関わりで考えられるだろう。

多度津丸亀線では、丸亀市津森町で津森位遺跡の調査を行った。古代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、中世の掘立柱建物跡、柱穴跡などを検出している。この遺跡の現在の立地は、比較的内陸部であるが、漁労具である釣鐘状を呈した飯蛸壺が出土している。同じような立地での出土例は高松市中間町の正箱・薬王寺遺跡で見られる。周辺を含めた丸亀平野には、条里型地割の痕跡が明瞭に残っており、古代には田村廃寺を始め大規模な遺跡が点在している。

香川県が管理する国道のうち、一般国道438号関係の事業として、丸亀市飯山町で東坂元北岡遺跡の調査を行った。標高422mの飯野山と大東川によって挟まれた狭小な場所に位置する。

中・後期の弥生土器が出土しているが、最近の造成によって遺構面が削平されているようで、良好な遺構は少ない。ただし、まとまった量のサヌカイト製石器およびサヌカイト剥片などが中期後半の弥生土器を伴って出土しており、約3.5kmに立地する、サヌカイト原石を産出する金山との関係から、弥生時代の石器製作場の可能性もうかがえる。

丸亀詫間豊浜線では、観音寺市高屋町で高屋条里遺跡の調査を行った。燧灘沿岸の標高2m程度の低湿地で実施した調査であるが、古代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡や中世の掘立柱建物跡、土坑などを検出している。遺構の検出面は現地地表下、1m以上と比較的深い。

大浜仁尾線では、三豊市仁尾町で家の浦遺跡の調査を行った。瀬戸内海に突き出た荘内半島の西斜面に位置する遺跡で、周辺からの海に対する眺望は良好である。小規模な掘立柱建

物跡や溝状遺構を検出している。出土遺物は、中世前半の土師器を中心とするが、瀬戸内海沿岸の各地からの搬入土器や中国製磁器が見られ、その比率も高い。遺跡の立地そのものは、標高20m程度の高地にあるが、この地域全体の位置づけから見れば、海上交通と深く関係した遺跡と考えられよう。

遺跡名	調査面積	調査期間	遺 構	遺 物
川原遺跡	5,019㎡	平18.4 ～平18.10	土坑、溝状遺構、自然流路跡	有舌尖頭器、石鏃、縄文土器、弥生土器、須恵器
川島本町 山田遺跡	196㎡	平18.8 ～平18.9	土坑、溝状遺構、自然流路跡	縄文土器、弥生土器、須恵器
木太中村遺跡	1,366㎡	平18.9 ～平18.11	溝状遺構、自然流路跡	弥生土器、須恵器、土師器、瓦器
東坂元北岡 遺跡	2,270㎡	平18.11 ～平19.3	土坑、溝状遺構、地鎮遺構	弥生土器、石庖丁、石斧、土師器
津森位遺跡	2,702㎡	平18.4 ～平18.8	竪穴住居跡、掘立柱建物跡 土坑	土師器、須恵器、漁労具
高屋条里遺跡	1,834㎡	平18.12 ～平19.3	竪穴住居跡、掘立柱建物跡 土坑	弥生土器、土師器、須恵器
家の浦遺跡	916㎡	平18.4 ～平18.7	掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構	土師器、瓦器、輸入磁器
合 計	14,303㎡			

第4表 県事業に伴う発掘調査事業一覧

かわら いせき
川原遺跡

所在地 高松市中間町
調査期間 平成18年4月～10月
調査面積 5,019㎡
調査担当 蔵本晋司、長井博志、木野戸直
調査原因 県道円座香南線道路改築事業

1 はじめに

本遺跡は、平成14年度より調査を実施し、今年度は県道円座香南線緊急地方道整備工事に伴う調査としてはその最終年度にあたる。調査地は、昨年度までの調査区の北側に位置し、調査前は水田や畑などの耕作地として利用されていた。

今年度の調査地は、間に保護処置終了地区を挟んで南部と北部にわかれており、南部を5区、北部を6区と呼称する。

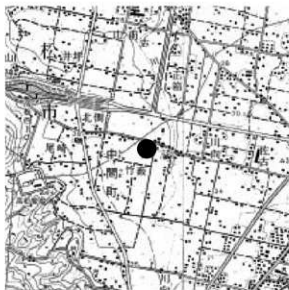
調査の結果、縄文時代から中世後半期の遺構・遺物が出土した。遺構面は、近世以降の造成によって大きく削平されており、旧耕作土層直下で弥生時代以降の遺構を検出し、そのベースとなる黄褐色系粘土層中より縄文期の石器ブロックが出土した。

2. 調査の成果

縄文時代の遺構としては、5区で検出された石器ブロックがある。石器ブロックは5区北部で出土し、南群と北群にわかれる。いずれも径8mほどの規模で、微細な剥片類を除くと、各々20点ほどの石器が出土した。製品として、南群から有舌尖頭器が、北群から石鏃がそれぞれ出土している。

なお、同層中より出土した炭化材2点について放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施（分析は、株式会社 加速器分析研究所に委託）した結果、1点が 3540 ± 40 yrBP、もう1点が 3610 ± 40 yrBPと近似した年代が得られた。土器資料が皆無であったが、理化学的分析結果を援用するなら、その年代は縄文時代後期中葉頃と考えられる。

弥生時代の遺構としては、6区より前期に遡る可能性のある水路、後期後半期の出水とみられる遺構とそれに付属する幹線水路、弥生時代後期に流下し古代には埋没したと推定される旧流路などを検出した。とくに後期の幹線水路からは、完形品を含む一定量の遺物が出土



第4図 遺跡位置図 (1/25,000)

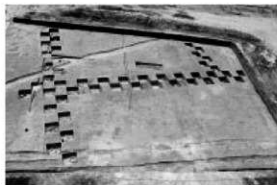


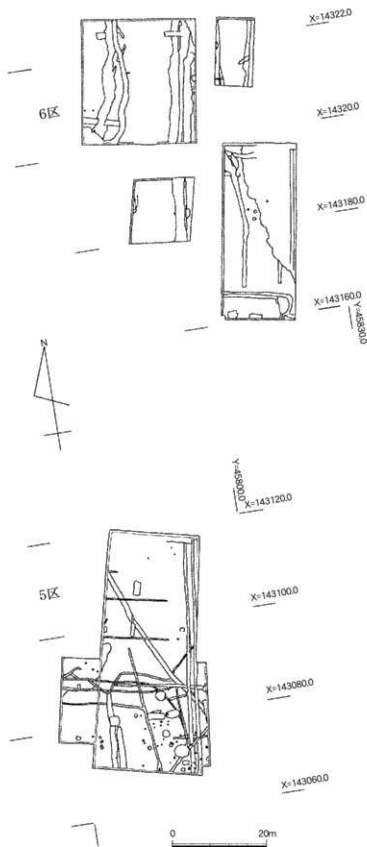
写真10 縄文石器ブロック調査状況 (東から)

しており、近接して当該期の集落が存在した可能性も考えられる。また旧流路からは、弥生土器と共伴してごく微量ながら縄文時代後・晩期の土器などが出土している点も特記しておきたい。

古代の遺構は、5区を中心に数条の溝状遺構を検出した。流路方向は各溝状遺構によって一定しておらず、安定した土地区画が継続しなかった可能性を示唆する。また、上述した6区旧流路上位層からはごく微量の当該期の遺物が出土している。堆積層はほぼ水平堆積を呈しており、水田の可能性が考えられたため、慎重に畦畔などを追及したが確認は得られなかった。

3. まとめ

今年度の調査のもっとも大きな成果は、黄色系粘土層からの縄文時代後期石器ブロックの検出であろう。調査面積に比して、出土した石器数は乏しい。これが遺跡の特徴であるのか、あるいは周辺部に位置するためか、今後の調査を待つ部分が大きい。いずれにせよ、周辺の土地環境の形成を考える上でも重要な資料となろう。



第5図 遺構配置図 (1/800)

川島本町山田遺跡

所在地	香川県高松市川島本町
調査期間	平成18年8月（調査） 平成18年9月（整理）
調査面積	196㎡
調査担当	北山健一郎、森格也、中村大地
調査原因	県道西植田高松線道路改良事業



第6図 遺跡位置図 (1/25,000)

1. はじめに

川島本町山田遺跡は県道のバイパス工事に伴って発掘調査を実施したもので、高松平野の南東縁辺部の春日川の氾濫による沖積地にあり、遺跡南西部の段丘を貫く開析谷の出口部分になる。遺跡の標高は20.5m前後で、遺構面は平坦である。

2. 調査の成果

土坑5基、溝状遺構1条、自然流路1条を検出した。このうち縄文時代後期の土坑が1基あるが、200mほど南にある川島本町遺跡でも縄文時代後期の遺構や土器・石器が多く出土しており、川島本町山田遺跡は川島本町遺跡を中心とする縄文時代後期の集落の縁辺部にあたるものと考えられる。このほか弥生時代前期の土坑が2基、平安時代の土坑が2基含まれている。溝状遺構（SD01）は出土物から平安時代のもので、ある程度埋没した段階で再掘削して維持・管理に努めている。その方向はN-81°-Wで山田郡の条里地割の東西の方向に合致している。さらにこの溝状遺構は山田郡5条7里22坪と27坪の坪界に相当している。

3. まとめ

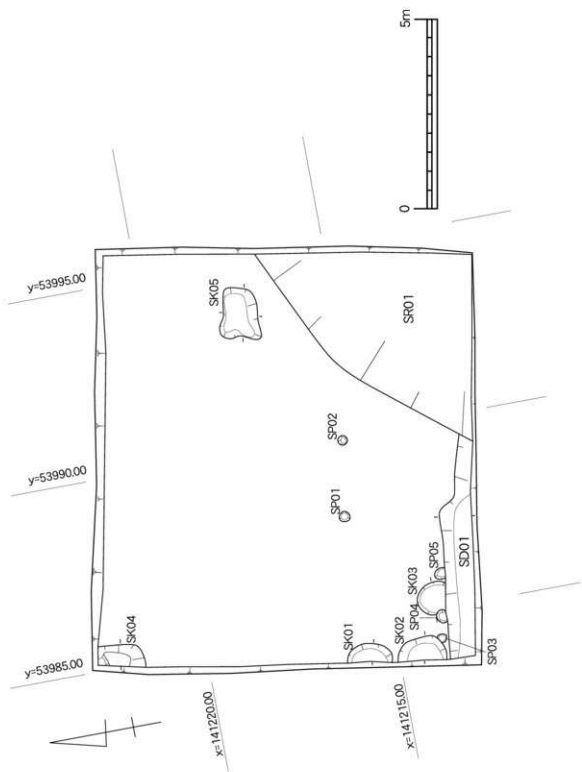
狭い調査区ではあったが、まだ資料的に少ない縄文時代後期の遺構・遺物を検出したことや、平安時代の山田郡の条里地割の一端を示す資料を得たことなど、多大な成果を得たと考えよう。



写真11 調査区全景(東から)



写真12 SD01完掘状況(西から)



第7图 遺構平面図(1/100)

木太中村遺跡

所在地	高松市木太町
調査期間	平成18年9月～11月
調査面積	1,366㎡
調査担当	木下晴一、福家正人、中村大地
調査原因	都市計画道路福岡三谷線道路改築事業



第8図 遺跡位置図 (1/25,000)

1. はじめに

遺跡は、香東川が形成した扇状地の地表面上における先端付近に位置する。扇状地上には条里型地割が広がり、それより海側には近世の新田開発による地割が広がっている。都市計画道路福岡三谷線は、この地形界を南北に縦断するが、扇状地部分では弥生時代から近世に至る集落遺跡が高松市教育委員会によって調査されている。今回の調査地は、その北側にあたり、古代の溝状遺構、中世の溝状遺構などを検出した。

2. 調査の成果

調査区の南東側付近を頂点とする微高地があり、その北側は湿地状の堆積物で埋まっている。さらにその北は、近世ころの旧河道が南東から北西方向に流れている。微高地は粒の揃った砂で構成され、縁辺には礫が堆積している。砂層中には貝殻片などは全く認められなかった。この微高地の堆積環境を検討するために珪藻分析を行った。分析の結果、珪藻は貧塩性種で占められており、海水の影響が認められないことが判明した。また、砂層直下の扇状地礫層の上面で検出した木片の放射性炭素年代が6058±32年BPを示したことから、この微高地は縄文海進以降に陸域が拡大する過程で河川の営力で堆積したものと判断される。

微高地の縁辺に沿うように幅1.2～2.0、深さ0.2～0.4mの溝状遺構を検出した。完形に近い古代の須恵器2点を含む土器片が出土した。この溝状遺構およびその上面を覆う厚さ20cmほどの包含層中には弥生時代後期の土器片が多量に含まれ、中には遺存度の良好なものも含まれているが、堆積年代は古代より新しい。

このほか周辺の条里型地割と方向が同じ幅1.6、深さ0.5mの溝状遺構を検出した。この溝から13世紀前半の土器片がコンテナ7箱出土した。土器の中には完形に近いものも多く、和泉型瓦器椀、吉備系土師器椀、東播系須恵器こね鉢など遠隔地からの搬入品が圧倒的に多いのが特徴である。瀬戸内海の臨海部に位置することから、海上交通との関わりが想定できる。

なお、調査時に近隣に所在する木太小学校の児童(約580名)の遺跡見学会を開催した。



写真13 調査地全景(北から)



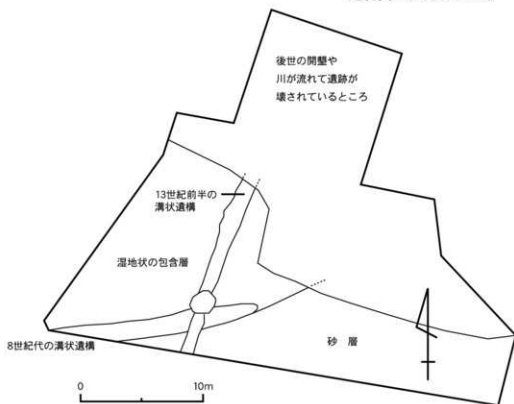
写真14 古代の溝状遺構
遺物出土状況(上層)(東から)



写真15 中世の溝状遺構(北から)



写真16 中世の溝状遺構
遺物出土状況(北から)



第9図 遺構配置 模式図

ひがし かもと きた おか い せき
東坂元北岡遺跡

所在地	丸亀市飯山町東坂元字三の池・ 字秋常
調査期間	平成18年11月～平成19年3月
調査面積	2,270㎡
調査担当	蔵本晋司、長井博志、木野戸直
調査原因	国道438号道路改修事業(飯山工区)

1. はじめに

本遺跡は、飯野山の東麓裾部に位置する。遺跡の東側には、大東川が更新世河岸段丘下を大きく蛇行しながら北流し瀬戸内海に注ぐ。また飯野山を東に流れ落ちる幾条かの谷筋は、大東川西岸の微高地をも分断して大東川に合流する。この南北を谷筋によって区切られた狭小な個々の微高地には順に川津川西遺跡、東坂元三ノ池遺跡が所在し、当遺跡もそのひとつで、三ノ池遺跡の南に隣接する。

調査の結果、弥生時代中期から中世後半期の遺構・遺物が出土した。遺構面は、近世以降と推定される造成によって大きく削平されており、旧耕作土層ないしは床土層直下で弥生時代以降の遺構を検出した。

2. 調査の成果

弥生時代の遺構としては、Ⅰ区及びⅡ区で低地帯を検出した。そのうちⅠ区低地帯の埋土は5層に細分され、上位3層が古墳時代後期以降の堆積層、下位2層が弥生時代中期の堆積層である。下位層からは、中期後葉の土器と共伴して、大量のサヌカイト剥片や石器が出土した。石器には、石鎌・打製石庖丁・石錐・石槍・スクレイパー・石核などがあり、一部に未製品も含まれ、またその多くに使用痕は認められない。剥片類は、微細なものまで含めると数万点を



第10図 遺跡位置図 (1/25,000)



写真17 Ⅰ区低地帯 遺物出土状況(東から)



写真18 Ⅰ区低地帯より出土した
サヌカイト石器、石片

越える量が出土しており、長軸10cm以下の小型のものが主体を占め、自然面が確認されるものも多い。サヌカイト製品は、肉眼観察ではそのほぼすべてが当遺跡の北東約3.5kmに所在する金山の産出品である可能性が想定される。また阿波吉野川流域結晶片岩製の磨製石器類は、石庖丁と柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、太型蛤刃石斧が数点出土したのみで、いずれも破損している。とくに太型蛤刃石斧の1点には、顕著な敲打痕が認められた。出土した石器の内容から、周辺域で石器製作がおこなわれたことは確実であり、周辺の地形環境を考えると、石器製作に特化した集落との評価が与えられよう。

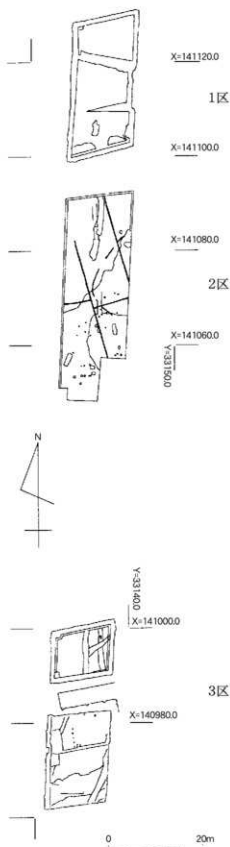
なお、Ⅲ区からは、後期後半期の東西走する大型灌漑水路を検出した。居住遺構は確認できなかったが、周辺に当該期の集落が展開する可能性が考えられる。

中世の遺構は、Ⅱ区の弥生低地帯南側の微高地上で柱穴群と土坑数基を、Ⅲ区で溝状遺構数条を検出した。14世紀を中心とした時期と推定される。いずれも顕著な削平を受けており、建物遺構について復元は困難であった。特筆すべき遺構として、Ⅱ区の柱穴跡から、ほぼ完形の坏3点が出土し、地鎮遺構と推定された。

3. まとめ

今年度の調査によるもっとも大きな成果は、弥生時代中期後葉のサヌカイト製石器製作についての資料が得られた点である。土器型式もⅣ期前葉頃に限られる可能性があり、低地埋土の包含層資料ながら良好な石器群と考える。残念ながら調査範囲で、工房や居住遺構についての情報は得られなかったが、数万点を越える膨大な石器・石片を詳細に分析すれば、当該期の石器製作について得られる情報は多彩であろう。

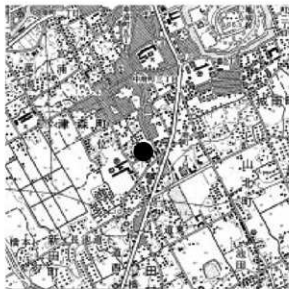
なお、3月10日には現地説明会を開催し、発掘調査地及び出土遺物の一部を公開した。150名を超える見学者があり、メモをとるなど、関心の高さがうかがわれた。



第11図 遺構平面図(1/800)

つのもりくらいいせき
津森位遺跡

所在地 丸亀市津森町
調査期間 平成18年4月～8月
調査面積 2,702㎡
調査担当 木下晴一 福家正人 八木國裕
調査原因 県道多度津丸亀線緊急地方道路
整備事業（丸亀工区）



第12図 遺跡位置図（1/25,000）

1. はじめに

香川県の瀬戸内海沿岸には「津」のつく地名が散在し、港津との関連が指摘されている。本遺跡が所在する津森町は、南北方向に延びる微高地上に位置し、北と西に潟や旧河川の存在が復原される地形環境である。微高地上には田村廃寺をはじめとする

遺跡が多く所在している。今回の調査によって、古代と中世の集落を検出した。

2. 調査の成果

調査対象地は、南北16×東西180mの範囲である。調査区に接してマンション建設工事が行われていたほか、商業施設、住宅などが近接するため10の小区画に分割して調査を行った。調査の結果、調査区の東半部が微高地となり、古代の集落跡その他を、西半部からは中世の集落跡を検出した。

古代の集落跡は、東西100mの範囲で掘立柱建物跡6棟、竪穴住居跡1棟を検出した。掘立柱建物跡のうち最大のもは2×5間で床面積33.6㎡のものである。これらは巨視的には周辺に広がる条里地割の方向と合致しているが、微細にみると方向をわずかに違えている。また、建物相互の配置に計画性は見られない。これらの建物群の年代や性格については今後の検討課題である。

中世の遺構は、東半部でも掘立柱建物が復元できるものがあるが、西半部に集中する。遺構の大半は柱穴跡である。これらはほぼ共通の埋土で、出土遺物も13世紀前半に収まるものと考えられる。柱穴跡の分布に粗密があるが、集落の境界を示す遺構は見られない。出土遺物には、舶来の青磁、東播系こね鉢などが含まれている。

このほか、東半部において古代の掘立柱建物跡をこわして長方形（2.6×3.2m、深さ0.2m）の竪穴状の落ち込みがあり、多数の蛸壺が出土した。現在は海岸から2km内陸であるが、かつては海に近いことを示唆する遺構である。

なお、丸亀市教育委員会主催の遺跡見学会にあわせて遺跡を公開し、84名の方が見学した。



写真19 I-1区完掘状況(東から)



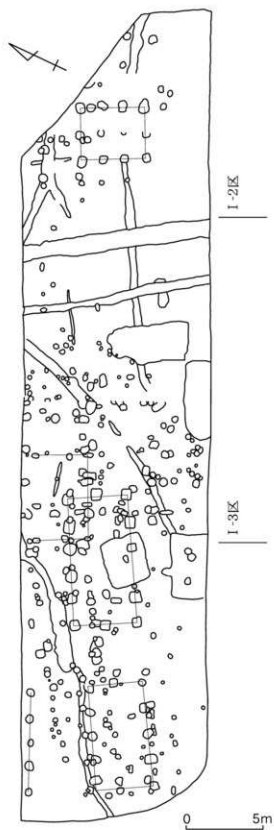
写真20 I-3区完掘状況(東から)



写真21 III-4区完掘状況(東から)



写真22 蛸壺出土状況(南東から)



第13図 I-2,3区遺構配置図

たか や じょう り い せ き
高屋条里遺跡

所在地	観音寺市高屋町
調査期間	平成18年12月～平成19年3月
調査面積	1,834㎡
調査担当	木下晴一、福家正人、 藤井菜穂子
調査原因	県道丸亀詫間豊浜線(観音寺工区) 緊急地方道路整備事業



第14図 遺跡位置図 (1/25,000)

1. はじめに

高屋町域は、小字の範囲が二町ほどの広さで、条里に関連する数詞地名が集中的に遺存していることから、県内では珍しく条里坪付が復原できる地域である。遺跡は、燧灘沿岸の砂堆背後の標高2mの低湿地にあり、坪内地割が長地型の条里地割が広がっている。また、近辺には縄文時代前期の遺物を出土する「なつめの木の貝塚」や、弥生時代前期の遺物が採集された室本遺跡、九州の阿蘇の凝灰岩製の石棺を埋葬する丸山古墳など著名な遺跡が散在している。今回の調査では、弥生時代前期から中世にかけての遺構を検出し、古代の遺構については注目すべきものがあった。

2. 調査の成果

調査区は、南北で約300m離れた二ヶ所である。北調査区からは、弥生時代後期の土器包含層を検出した。南調査区では財田川により形成されたと考えられる砂礫からなる微高地があり、その上面から古代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡2、溝状遺構その他を検出した。掘立柱建物跡のうちの1棟は、2×2間(3×3.4m)で径0.7mほどの不整形の掘り方である。柱痕は検出できなかった。もう1棟は2×3間(3.4×4.3m)の規模で、径0.5mほどの円形の柱穴跡で柱痕を伴う。竪穴住居跡は6.0×4.9mの規模で、一部に壁溝が遺存する。柱穴跡は検出できなかった。これらの建物は、方向を磁方位に合わせている。出土遺物は僅少であるが、同じ方向をもつ溝状遺構の出土遺物から、7世紀後半のものと考えられる。

2×2間の掘立柱建物跡の西南方向の土坑は、口縁部と底部を打ち欠いた甕を正立させ、鉢で蓋をしていた。内部から割れた鉢が出土したほかは、遺物は無かった。胞衣壺である可能性を考えている。

以上の古代の遺構は、磁方位を基準に計画的な配置をしている点が注目できる。また、周辺に広がる条里地割(座標北から30度東偏)とは無関係で、条里地割はこの遺構群より後に施工されたと考えられる。このほか、南調査区では溝状遺構(弥生時代前期の壺の底部1点が出土した)、中世の掘立柱建物跡2棟などを検出した。

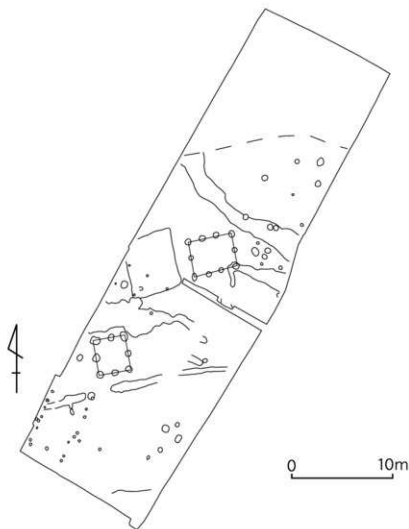
なお、調査終了時に地元を対象とする説明会を開催し、73名の参加を得た。



写真23 南調査区(南半)完掘状況
(南から)



写真24 胞衣壺 調査状況(南から)



第15図 南調査区 遺構配置図

家の浦遺跡

所在地	香川県三豊市仁尾町家の浦
調査期間	平成18年4月～5月（調査） 平成18年6月～7月（整理）
調査面積	916㎡
調査担当	北山健一郎、森格也、中村大地
調査原因	県道大浜仁尾線道路改良事業



第16図 遺跡位置図 (1/25,000)

1. はじめに

家の浦遺跡は県道のバイパス工事に伴って発掘調査を実施したもので、荘内半島の西側に位置し、海岸から約400mの丘陵の斜面部にある。遺跡の標高は12.0～20.2mで、東から西に向かって傾斜している。

2. 調査の成果

調査区は南側を1区、北側を2区に分割して実施した。全体に傾斜する調査区であるが、その中でも狭小な平坦地に小規模な1間×1間の掘立柱建物跡を2棟、1間×2間のものを1棟検出している。これら3棟の掘立柱建物跡は規模や建物の主軸方位もほぼ同じである。居住するには不適な場所であり建物の規模も小さいことから、これらの掘立柱建物跡は納屋あるいは作業小屋と考えられる。調査区の西端の最も低い部分では溝状遺構（SD01）を1条検出している。この部分は谷地形の底部に近い場所で、谷筋を流れてくる水の流れを制御する目的で掘削されたものと考えられる。出土遺物は遺跡全体でも少ないが、溝状遺構を中心に中世前半の土師器杯・椀・小皿とともに畿内産瓦器、中国製白磁・青磁、吉備系土師器椀、東播系須恵器擂鉢などが出土している。出土遺物に占める他地域産の遺物の割合が高いのが特徴で、特に瓦器の出土比率は26%に及んでいる。

3. まとめ

家の浦遺跡は中世から近世にかけて繁栄し物資の集積する拠点的な港の一つである仁尾港に地理的にも近く、他地域との交流を示す遺物の割合が高いのが特徴であることから、瀬戸内海を利用した海運による物流を示すものとして注目される。



写真25 家の浦遺跡1区全景(北東から)

3 整理・報告事業

整理事業の内訳は、国・公社事業3件（6遺跡）、県事業8件（8遺跡）である。

国・公社事業は、国土交通省から国道バイパス関連事業を、郵政公社から郵便局関連事業を受託して行った。

県事業は、土木部所管の県道建設及び河川改修事業が中心で、他部局所管のものとしては農業試験場移転と県立高校新設に係る大規模遺跡の整理を行った。

これらのうち、農業試験場移転に伴う西末則遺跡は3ヵ年目に当たり、総面積75,857㎡のうちの39,758㎡が終了した。

また、三木高校建設に伴う鹿伏・中所遺跡は整理事業の初年度であり、総面積15,391㎡のうちの3,640㎡が終了した。19年度以降も継続して実施する予定である。

報告書は国・公社事業で4冊（4遺跡）、県事業で6冊（9遺跡）を刊行した。

平成6年度から継続してきた空港跡地整備事業に伴う整理については、最終の報告書刊行となり、平成2年度の発掘事業開始から17年間を要した事業が完全に終了した。

区 分	事 業	遺跡名	期 間
国・ 公社 事業	一般国道32号満濃バイパス	吉野下秀石遺跡	平成18年8月～平成19年3月
	一般国道32号綾歌バイパス	渡池遺跡 住吉遺跡	平成18年4月
	一般国道32号綾歌バイパス	北内遺跡 池下遺跡	平成18年5月～平成19年3月
	三木郵便局	砂入遺跡	平成18年4月～7月
県事業	県道塩江屋島西線	竹元遺跡	平成18年4月
	県道高松長尾大内線	尾崎西遺跡	平成18年4月～平成19年3月
	弘田川河川改修	弘田川西岸遺跡	平成18年5月～平成19年3月
	農業試験場	西末則遺跡	平成18年4月～平成19年3月
	三木高校	鹿伏・中所遺跡	平成18年4月～平成19年3月
	県道大浜仁尾線	家の浦遺跡	平成18年6月～7月
	県道西植田高松線	川島本町山田遺跡	平成18年9月
	県道多度津丸亀線	今津中原遺跡	平成18年10月～平成19年3月

第5表 整理事業一覧

区 分	書 名	遺跡名
国・ 公社 事業	一般国道32号満濃バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊	羽間遺跡
	高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第11冊	西浦谷遺跡
	一般国道319号善通寺バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 報告 第2冊	西原遺跡
	三木郵便局建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	砂入遺跡
県(県公 社含む) 事業	県道塩江屋島西線道路局部改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 報告	竹元遺跡
	県道高松志度線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	小山・南谷遺跡
	県道高松普通寺線道路改修事業及び県道西植田高松線道路改良 事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	田村遺跡
		川島本町遺跡
		川島本町南遺跡
	県道大浜仁尾線道路改良事業及び県道西植田高松線道路改良 事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	家の浦遺跡
		川島本町山田遺跡
香川県農業試験場移転整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊	西末則遺跡	
空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第9冊	空港跡地遺跡	

第6表 刊行発掘調査報告書一覧

Ⅲ 普及・啓発事業

本年度も、昨年同様、埋蔵文化財センター展示室での常設展示・速報展示、施設外でのふるさと展示などの企画展、現地説明会の開催、現場見学の受け入れ、講師の派遣、発掘調査体験学習の実施、文化ボランティア活動の推進、資料の貸出・利用への対応、広報誌の刊行、研究紀要の刊行、新聞記事の連載、職場体験学習の受け入れ等を行った。

また、新たに坂出市立府中小学校との連携学習を1年間（計11回）行ったほか、夏季休業中の児童・生徒の社会科の課題に助言する「夏休み自由研究サポート110番」事業を実施した。

以下、主な事業について報告する。

1 展 示

(1) 香川県埋蔵文化財センターの展示

第1展示室は、「遺跡・遺物から見た香川の歴史」（常設）と題して、旧石器時代から近世までの香川県の通史を概観できる内容としている。

第2展示室は、整理報告が終了した遺跡の成果を速報的に展示しており、今年度は第7表の展示を行った。

1年間の見学者は2,435人であり、前年度同様、2,000人を突破し、当初の目標の2,400人をクリアすることができた。夏休み期間中の展示解説会に体験型のイベントを設けたことなどが増員の理由になったと考えられる。また、例年よりも夏休みの観覧者数が多かったが、秋の遠足シーズンに利用する学校が減少し、今後学校に対する周知を強化する必要があると考えられる。

展示室においては、団体はもちろん個人の場合も見学者の希望により、随時職員による展示解説を行った。また、速報展に関する展示解説会を第8表のとおり開催した。今年度は8月の展示解説会において、火おこしや石包丁での穂首刈り体験、製塩実験など参加型のイベントを行ったところ、多くの家族連れが参加し、従来の展示解説会とは違った雰囲気となった。

次年度も同様の試みを継続してみたい。

(2) 香川県埋蔵文化財センター以外の施設での展示

埋蔵文化財の保護意識の啓発を積極的に進めるために、県内各地や県外の施設で展示を行った。

3年目となる四国内の5つの埋蔵文化財センターが共同で展示を行う「四国地区埋蔵文化財センター巡回展 発掘へんろ～遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波～」は、今年度も順調に巡回展示を行うことができた。核となる速報展示以外に新たにテーマ展示「癒しと祈り」を設け、四国遍路以前の祭祀遺物を中心に紹介した。今年度は東京国立博物館の「考古相互貸借事業」を利用する機会を得たため、同館での展示が実現でき、四国の考古学情報を首都圏



写真26 展示室



写真27 展示解説会

会 期	テ ー マ
平成18年4月27日～6月23日	よみがえる御林守の姿 ～高松市栗林公園～
平成18年6月29日～9月8日	塩作りを生業とした村 ～高松市小山・南谷遺跡～
平成18年9月14日～10月27日	木と古代人
平成18年11月2日～平成19年1月26日	いにしへの画廊 ～高松市空港跡地遺跡～
平成19年2月1日～4月20日	丘の上に作られた村 ～三木町西浦谷遺跡～

第7表 速報展一覧

年 月 日	テ ー マ
平成18年5月25日	よみがえる御林守の姿 ～高松市栗林公園～
平成18年8月4日	塩作りを生業とした村 ～高松市小山・南谷遺跡～
平成18年12月21日	いにしへの画廊 ～高松市空港跡地遺跡～
平成19年3月15日	丘の上に作られた村 ～三木町西浦谷遺跡～

第8表 速報展展示解説会一覧

一 般			団 体								合 計
大人	小人	計	団体数				構成員数				
			一般	高校生	小・中 学生	計	一般	高校生	小・中 学生	計	
960	177	1,137	14	0	9	23	890	0	408	1,298	2,435

第9表 展示室入館者数

へ発信することができた。東京では5万人を超える方々に四国の資料を見ていただいた。さらに今年度も「四国はひとつ」4県連携施策を活用し、東京国立博物館で「四国発・発掘へんろ～遺跡めぐる四国の埋蔵文化財講演会～」と題し、徳島文理大学教授石野博信先生に

月 日	団 体 名	月 日	団 体 名
4月28日	綾川町立滝宮小学校	4月28日	坂出市立府中小学校
5月10日	坂出市立東部小学校	5月19日	坂出市立櫃石小学校
5月25日	坂出市立府中幼稚園	6月21日	坂出市立府中小学校
7月6日	高松市立香東中学校	7月21日	大阪府文化財センター友の会
7月24日	高松市立香南中学校郷土研究部	7月28日	坂出親子市政バス
8月24日	高松市林コミュニティ	9月2日	島根大学法文学部
9月21日	徳島文理大学文化財学科	10月4日	厚生年金受給者協会 高松南部ウォークの会
10月19日	徳島文理大学文化財学科	10月20日	高松市香南公民館高齢者会
10月31日	東かがわ市立福栄小学校	11月10日	香川県年金者組合女性の会
11月13日	多元的古代研究会	12月13日	坂出市立白峰中学校
12月17日	備陽史学会	3月20日	まんのう町文化財保護協会
3月23日	円座地区老人クラブ連合会		

第10表 展示室入館団体一覧

ご講演をいただいた他、4回にわたり、各県の史跡や展示資料を紹介する列品解説会を同館で行い、講演会と列品解説会で500人を超える多くの方々にご参加いただいた。

一方、昨年度に引き続き県内の文化施設が共同で開催する「夏休み子どもミュージアム」も好評を得た。今年度は各施設が「木」をテーマとした独自の展示を行う分散型とし、当センターでは「木と古代人」と題し、遺跡から出土した木製品に関する展示を県立文書館で開催した。また、この展示に関する体験教室「夏休み子ども考古学教室」も同館で開催した。

この他、県内での発掘調査によって出土した資料を地元で公開する「ふるさと展示」を各地で開催した。この中には、埋蔵文化財センターが各地で調査した遺物の里帰り展示や、地元の教育委員会や資料館と共同で各地の特色ある文化を示す遺物を展示する共催展などがある。ふるさとの祖先が残した遺物にふれることは地域に根ざす文化を再発見するものであり、地元ゆかりの埋蔵文化財に久しぶりに親しむことができる人々や新たな愛好者層の開拓につながった。

平成18年度の新しい試みとして、秋の「森の文化祭」への出展があげられる。これは香川県などが主催する環境保護を訴えるイベントであり、従来から実施されてきたものであるが、埋蔵文化財センターとして初めて出展を行った。イベントの趣旨にのっとり、主に保存処理を行った木製品を中心に展示を行い、木製の臼と杵を使った脱穀体験や石斧を使った伐採体験などの参加型のイベントも行い、多くの参加者でにぎわった。

さらに、サヌカイトを科学と歴史の両面からとらえた、国立科学博物館との共同事業「科

博コラボ・ミュージアムin香川「サヌカイトの秘密に迫る！」を平成19年3月にサンポート高松「eーとびあ・かがわ」において開催し、展示のほかに講演会や石器づくりなどの体験教室を実施し、5日間で約2,500名の来館者を得た。

2 現地説明会・現場見学

(1) 現地説明会

発掘調査の成果を速やかに、広く一般の方々に周知するために、3遺跡において現地説明会を実施した。いずれも参加者が100人を超える盛況で、改めて現地説明会を開催することの必要性を痛感させられた。



写真28 発掘へんろ(東京国立博物館)



写真29 石野博信先生による講演会



写真30 ふるさと展示(まんのう町)



写真31 森の文化祭



写真32 科博コラボ(左:サヌカイトで紙を切る 右:サヌカイトを奏でる)



	テーマ	会場	会期	観覧者数
ふるさと展示	華麗なる旧練兵場遺跡	普通寺市市民会館	平成18年4月1日 ～4月9日	261
	塩の歴史・ここに始まる	坂出市立塩業資料館	平成18年8月15日 ～10月30日	421
		坂出市立郷土資料館	平成18年11月5日 ～11月29日	636
	権威のシンボルのうつりかわり ～古墳から寺院へ～	観音寺市中央図書館	平成18年8月25日 ～9月10日	501
	讃岐の古代遺跡と南海道	東かがわ市歴史民俗資料館	平成18年9月16日 ～11月13日	489
	動物園跡地発掘調査展	栗林公園讃岐民芸館	平成18年10月1日 ～11月26日	11,040
	山を越え、海を渡った 人やもの	まんのう町立 琴南ふるさと資料館	平成18年10月31日 ～11月12日	423
	土に刻まれた身近な歴史 ～高松平野東部の遺跡～	香川県立文書館	平成19年2月6日 ～3月4日	1,199
	県立文化施設共同事業 「木と古代人」	香川県立文書館	平成18年7月20日 ～9月3日	3,251
	新しい弥生時代の社会像 『交易する村々』	徳島文理大学図書館	平成18年11月12日 ～11月25日	350
さぬき市21世紀館		平成19年1月23日 ～2月4日	350	
森の文化祭	県立満濃森林公園	平成18年10月30日	700	
科博コラボ・ミュージアムin香川 「サヌカイトの秘密に迫る！」	e-とびあ・かがわ	平成19年3月21日 ～3月25日	2,348	
四国地区埋蔵文化財センター 巡回展 「発掘へんろ～遺跡でめぐる 伊豫・土佐・讃岐・阿波～」	松山市考古館	平成18年4月22日 ～7月17日	2,776	
	高知県埋蔵文化財 センター	平成18年8月1日 ～9月30日	449	
	香川県歴史博物館	平成19年1月18日 ～2月18日	2,643	
	徳島県埋蔵文化財センター	平成19年2月21日 ～3月25日	832	

	東京国立博物館	平成19年1月16日 ～3月18日	50,591
合 計			78,560

第11表 センター外展示一覧

(2) 地元説明会・現場見学

発掘調査現場の公開は、臨場感が見学者に大きな感銘を与える点で、文化財保護意識の向上に大いに寄与する。そこで、各発掘調査現場で学校等から随時見学を受け入れた。高松市木太中村遺跡では地元の木太小学校が全校をあげて見学に訪れたほか、坂出市別宮北遺跡・別宮北古墳群では、西庄小学校が全校で見学に訪れた。そのほか、観音寺市高屋条里遺跡では地域の人々を中心に70人を超える参加があり、地元の関心の高さをうかがわせた。

現地説明会および地元説明会・現場見学についての実績は第12、13表のとおりである。

3 講師の派遣

県内の教育機関、文化財関係機関、各種研究会・団体等からの派遣依頼に応えた。内容は講演、授業、体験学習、遺跡解説等である。従来に比べ、今年度は地域のコミュニティ活動に関連した講座の依頼が多く、次年度以降も同じような傾向が続くものと思われる。

4 坂出市立府中小学校との連携事業（「よろこび学習」）

これまで、県内の多くの小中学校からの依頼によって、総合学習への体験講座や出前授業を実施してきたが、今年度は特定の学校との年間を通じた総合学習活動を実施した。対象は坂出市立府中小学校6年生45名である。4月の展示見学に始まり、出前授業や土器作り、参観日を利用した親子炊飯・製塩体験など全部で11回の活動を実施した。詳細な内容は第16表のとおりである。



写真33 現地説明会
(別宮北遺跡・別宮北古墳群)



写真34 講師派遣(勾玉作り)



写真35 講師派遣によるガラス玉作り
(左:ガラス棒をあぶる 右:溶けたガラスが丸まって玉状になる)



写真36 講師派遣(土器作り)



写真37 講師派遣(分銅型土製品作り)



写真38 坂出市立府中小学校との連携事業 (左:製塩土器作り 右:発掘体験)



	年 月 日	対 象	見学者数
津森位遺跡 (丸亀文化財の日)	平成18年7月22日	一般	84
俊正遺跡 (丸亀文化財の日)	平成18年7月22日	一般	43
別宮北遺跡・別宮北古墳群地元説明会	平成18年12月23日	地元住民	140
別宮北遺跡・別宮北古墳群現地説明会	平成19年3月3日	一般	170
高屋条里遺跡地元説明会	平成19年3月10日	地元住民	73
東坂元北岡遺跡現地説明会	平成19年3月10日	一般	150
合 計			667

第12表 現地説明会・地元説明会一覧

年 月 日	遺 跡 名	団 体 名	人 数
平成18年10月 2日	木太中村遺跡	高松市立木太小学校	215
平成18年10月 3日	木太中村遺跡	高松市立木太小学校	367
平成18年12月15日	別宮北遺跡・別宮北古墳群	坂出市立府中小学校	48
平成18年12月19日	別宮北遺跡・別宮北古墳群	坂出市立西庄小学校	101
合 計			731

第13表 発掘調査現場見学団体一覧

依 頼 先	月 日	場 所	内 容	対 象	人 数
観音寺市 文化財保護協会	4月27日	観音寺市民会館	講演会講師	会 員	130
三豊市文化財保護協会 三野支部	5月29日	三野町 社会福祉センター	講演会講師	会 員	45
丸亀市 飯山北コミュニティ	6月3日	東坂元周辺	遺跡めぐり	一 般	45
亀阜地区 民生委員協議会	6月11日	亀阜小学校	勾玉作り	小学生	80
徳島市立考古資料館	6月24日	徳島市立考古資料館	講演会講師	一 般	54
高松市立 香南小学校PTA	7月1日	香南小学校	勾玉・ 土笛作り	小学生	56
東かがわ市引田校区 子ども会育成会	7月16日	東かがわ市 総合運動公園	火おこし	小学生	36
三豊市豊中町子ども会	7月22日	四ツ足自治会館	ガラス玉作り	小学生	21
香中研高松支部 社会科部会	7月29日	香川県歴史博物館	勾玉・ 石包丁作り	教 員	60
高松市塩江公民館	7月29日	塩江公民館	勾玉作り	小学生	30
讃岐国分寺跡資料館	7月30日	讃岐国分寺跡資料館	ガラス玉作り	小学生	15
高松市 木太コミュニティ	8月3日	木太公民館	勾玉作り	小学生	26
香南歴史民俗郷土館	8月6日	香南歴史民俗郷土館	土器作り	小学生	19
高松市 前田コミュニティ	8月7日	前田公民館	土笛作り	小学生	35

勝賀城跡保存会	8月7日	勝賀城跡	火おこし	小学生	55
高松市 東植田コミュニティ	8月9日	東植田公民館	勾玉作り	小学生	17
香南歴史民俗郷土館	8月19日	香南歴史民俗郷土館	勾玉作り	小学生	25
四国新聞社	9月2日	沙弥島ほか	遺跡めぐり	一 般	30
宇多津町歴史文化講座	10月10日	宇多津町保健センター	ガラス玉作り	一 般	18
香南歴史民俗郷土館	10月14日	香東川河川敷	土器焼き	小学生	19
考古学研究会	10月14日	岡山大学	講演会講師	会 員	30
東かがわ市 歴史民俗資料館	10月21日	東かがわ市 歴史民俗資料館	講演会講師	一 般	30
坂出市教育委員会	11月11日	坂出市中央公民館	勾玉作り	小学生	7
坂出市教育委員会	11月12日	坂出市中央公民館	サヌカイト体験	一 般	200
善通寺市 文化財保護協会	11月25日	善通寺市市民会館	講演会講師	会 員	30
佐賀県教育委員会	12月9日	吉野ヶ里遺跡展示室	講演会講師	一 般	45
COOP宇多津 歴史文化教室	2月19日	宇多津町保健センター	ガラス玉 作り	一 般	26
三豊市三野教育事務所	3月3日	三野町文化センター	分銅形土製品作り	小学生	50
合 計					1,234

第14表 講演・講座等への講師派遣一覧

学 校 名	月 日	場 所	内 容	対 象	人 数
高松市立前田小学校	5月30日	前田小学校	土器作り	6年生	43
多度津町立豊原小学校	7月11日	豊原小学校	土器作り	6年生	77
坂出市立櫃石小学校	7月13日	櫃石小学校	製塩土器作り	小学生	11
高松市立屋島西小学校	7月14日	屋島西小学校	製塩土器作り	6年生	134
坂出市立櫃石小学校	8月25日	櫃石小学校	製塩土器焼き	小学生	11
坂出市立櫃石小学校	8月28日	櫃石小学校	土器製塩	小学生	11
高松市立屋島西小学校	9月8日	屋島西小学校	製塩土器焼き	6年生	134
多度津町立豊原小学校	9月26日	豊原小学校	土器焼き	6年生	77
高松市立屋島西小学校	9月27日	屋島西小学校	土器製塩	6年生	134

高松市立前田小学校	10月4日	前田小学校	土器焼き	6年生	44
合 計					676

第15表 学校への講師派遣一覧

回数	月 日	場 所	内 容	対 象	人 数
第1回	4月28日	埋蔵文化財センター	施設見学	6年生	45
第2回	6月19日	府中小学校	出前授業(旧石器～弥生)	6年生	45
第3回	6月28日	府中小学校	土器作り	6年生	45
第4回	7月18日	府中小学校	製塩土器作り	6年生	45
第5回	9月18日	府中小学校	出前授業(古墳～古代)	6年生	45
第6回	9月25日	埋蔵文化財センター	勾玉作り	6年生	45
第7回	10月18日	府中小学校	出前授業(中・近世)	6年生	45
第8回	10月24日	府中小学校	土器焼き	6年生	45
第9回	11月25日	府中小学校	土器炊飯・土器製塩	6年生	45
第10回	12月15日	別宮北遺跡・別宮北古墳群	遺跡見学	6年生	45
第11回	2月1日	別宮北遺跡・別宮北古墳群	発掘体験・遺跡見学	6年生	45
合 計					495

第16表 坂出市立府中小学校との連携事業一覧

5 夏季休業中の児童・生徒の社会科の課題への助言事業

(「夏休み自由研究サポート110番」)

これまで、夏季休業中に当センターへ来館し、社会科の課題についての問合せはいくつかあったが、事業化していなかったため、今年度は広報を行ったうえで、職員を配置して助言を行うこととした。

期間は7月21日～8月31日までで、30組74名の児童・生徒に利用していただいた。

6 発掘調査体験学習(「Getだぜ!ドキドキ夏休み ～考古学を味わう夏～」)

毎年子どもの埋蔵文化財への興味や理解を深めるために、平成14年度から小・中学生を対象とし、発掘体験を中心とした体験講座を開催してきたが、今年度は8月11日に高松市川原遺跡で発掘体験と調理体験を実施した。

当日は、真夏の猛暑の中、親子48名が3グループに分かれ、発掘体験のほか、石器で肉や野菜を切り、土器で調理し、試食する調理体験などに挑戦した。

7 広報誌の刊行

広報誌「いにしへの讃岐」50～53号を刊行した。第50号より表紙・内容ともに一新し、これまで以上に、わかりやすい内容を掲載することを念頭において編集した。内容は、発掘調査や整理作業の最新の成果、速報展等の誌上再現、遺物クイズ、保存処理のミニ知識、普及啓発活動結果、県内の重要遺跡の紹介等の記事を掲載した。

号数	内 容
50号	<ul style="list-style-type: none"> ・最新!! 発掘情報 津森位遺跡 家の浦遺跡 川原遺跡 俊正遺跡 ・特集 埋蔵文化財センター速報展 「塩作りを生業とした村～小山・南谷遺跡（高松市）～」 ・埋文センター発信! 埋文センターの普及活動だより 古代人の技術を体験しよう 保存処理室だより 袋状編み物の保存処理 ぶらり遺跡めぐり 藤目城跡 埋文秘宝館 鏡の謎にせまる ・埋文クイズ QUIZ! 考古学に挑戦 ・夏～秋の催しもの案内
51号	<ul style="list-style-type: none"> ・最新!! 発掘情報 津森位遺跡 俊正遺跡 川原遺跡 川島本町山田遺跡 ・特集 埋蔵文化財センターふるさと展示 「さぬきの古代遺跡と南海道」 ・埋文センター発信! 整理室だより 鹿伏・中所遺跡 保存処理室だより 梵鐘鋳造遺構の保存処理 ぶらり遺跡めぐり 江甫草山（九十九山）城跡 埋文秘宝館 角錐状石器の接合資料 ・埋文クイズ QUIZ! 考古学に挑戦 ・秋～冬の催しもの案内
52号	<ul style="list-style-type: none"> ・最新!! 発掘情報 俊正遺跡 川原遺跡 木太中村遺跡 別宮北遺跡・別宮北古墳群 ・特集 埋蔵文化財センター速報展 「いにしへの画廊～空港跡地遺跡（高松市）～」

	<ul style="list-style-type: none"> ・埋文センター発信！ 整理室だより 池下遺跡 埋文秘宝館 旧練兵場遺跡 展示会の記録 「森の文化祭」に参加して ・埋文クイズ QUIZ! 考古学に挑戦 ・冬～春の催しもの案内
53号	<ul style="list-style-type: none"> ・最新!! 発掘情報 別宮北遺跡・別宮北古墳群 高屋条里遺跡 東坂元北岡遺跡 ・特集 第三回四国地区埋蔵文化財センター巡回展 「発掘へんろ～遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波～」(東京国立博物館編) ・埋文センター発信！ 整理室だより 西末則遺跡 保存処理室だより これは何でしょう？ ぶらり遺跡めぐり 音川城跡と関の跡 埋文秘宝館 三累環頭大刀 ・埋文クイズ QUIZ! 考古学に挑戦 ・普及啓発事業をふりかえって

第17表 広報誌「いにしへの讃岐」一覧

8 文化ボランティア活動

県立文化施設5館共同で文化ボランティア事業を1年更新で実施している。埋蔵文化財センターでも応募採用された21名の文化ボランティアに発掘調査や普及啓発活動の写真・ビデオによる記録撮影と各種の普及啓発活動のサポートを行っていただいた。



写真39 文化ボランティアの活動 (左:発掘調査現場での研修 右:屋外展示)

主な活動は相手方の依頼に応じたものとなるため、ボランティアの皆さんには不定期の活動に対する日程調整が難しかったり、県内各地へ出向いていただいたりで不便をおかけしたが、活動回数は昨年度並の39回を数えた。また記録撮影の成果品は、「さぬき教育ネット」や広報活動で随時、活用させていただいた。

9 資料の貸出・利用

出土品や撮影記録等の埋蔵文化財資料の活用を図るため、展示以外に、学校や埋蔵文化財関係機関等からの資料貸出、資料調査、写真掲載等の要請に応えた。

平成18年度の利用実績については、第18表のとおりである。

区 分	学校・大学	研究会・同好会	教育委員会・ 博物館等	出版社・新聞社	個人・他
遺物	7	2	15	0	9
写真・パネル	3	0	6	1	0
レプリカ・模型	0	0	1	0	0

第18表 資料貸出・利用一覧(数字は件数)

10 研究紀要の刊行

職員の日常における埋蔵文化財の調査・研究の成果をまとめ、業務に反映することを目的に、『香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅲ』を刊行した。内容は以下のとおりである。

蔵本晋司「高松市茶臼山古墳の基礎的研究Ⅰ - 円筒埴輪の整理から -」

渡部明夫「讃岐国分寺の研究史」

渡部明夫「瓦からみた讃岐国分寺の造営時期について」

渡部明夫「府中・山内瓦窯跡について～讃岐国分寺瓦屋の基礎的整理～」

小野秀幸「沙弥島採取のナイフ形石器について」

中山尚子・片桐孝浩「木製品製作時における樹種の選択」

11 新聞連載

平成18年5月3日から、毎週水曜日の四国新聞に「讃岐木と人のものがたり」と題し、夏休み子どもミュージアムに関連した連載を行った。また、11月1日からは、「古からのメッセージ第5部・さぬき歴史教室」をスタートさせ、新たに執筆陣に、市町教育委員会で日々文化財の保護に取り組む職員も加え、より地域に密着した文化財をふるさとの視点からわかりやすく解説している。本連載は次年度も継続していく予定である。

12 職場体験学習

中学校・高等学校生徒の職場体験学習や総合学習の受け入れを行った。
作業内容は、出土品の接合・実測、貸出品の検索・収納、ワークショップ準備等である。
受け入れた学校ならびに人数については第19表のとおりである。

学 校	期 間	人数(人)	備 考
高松市立香東中学校	7月6日	82	職場見学
満濃町立満濃中学校	8月2日～4日	2	職場体験学習
香川中央高校	8月28日～29日	1	職場体験学習
坂出市立坂出中学校	8月28日～29日 9月6日～8日	4	職場体験学習
坂出市立白峰中学校	1月23日～25日	3	職場体験学習

第19表 職場体験学習一覧

13 刊行物一覧

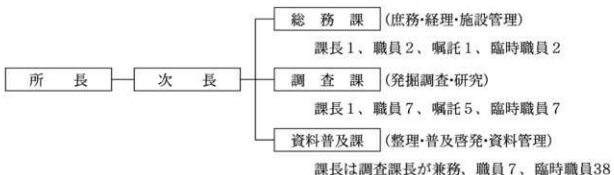
- ・香川県埋蔵文化財センター年報 平成17年度
- ・香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅲ
- ・広報誌「いにしへの讃岐」 50～53号

※発掘調査報告書は「整理・報告事業」にまとめた。

IV 組織・施設

1 香川県埋蔵文化財センターの組織

(1) 組織



(2) 職員

所 属	職 名	氏 名	備 考
所	長	渡部 明夫	
次	長	樽原 正人	
総 務 課	課 長	野口 孝一	
	主 任	嶋田 和司	
	"	田中 千晶	
	嘱 託	松尾 倬三	
調 査 課	課 長	廣瀬 常雄	
	文化財専門員	森 格也	
	"	木下 晴一	
	"	蔵本 晋司	
	"	宮崎 哲治	
	"	福家 正人	
	"	佐々木和裕	
	"	長井 博志	
	嘱 託	高嶋 勝英	
	"	中村 大地	
	"	藤井菜穂子	
	"	木野戸 直	
	"	八木 國裕	

所 属	職 名	氏 名	備 考
資料普及課	課長(兼務)	廣瀬 常雄	
	主任文化財専門員	西村 尋文	
	"	西岡 達哉	
	"	片桐 孝浩	
	文化財専門員	北山健一郎	
	"	山元 素子	
	"	森下 英治	
	"	小野 秀幸	

第20表 職員一覧

2 施設の概要

(1)所在地 香川県坂出市府中町字南谷5001-4

(2)敷地面積 11,049.23㎡

(3)建物構造・延床面積

①本館	鉄筋コンクリート造・2階建 (一部鉄骨造・平屋建)	1,362.23㎡
②分館	鉄骨造・2階建	337.35㎡
③第1収蔵庫	鉄骨造・2階建	1,525.32㎡
④第2収蔵庫	鉄骨造・3階建	2,040.33㎡
⑤車庫	鉄骨造・平屋建	29.97㎡
⑥自転車置場	鉄骨造・平屋建	25.00㎡

香川県埋蔵文化財センター年報

平成18年度

平成20年2月15日 発行

編集・発行 香川県埋蔵文化財センター
香川県坂出市府中町南谷5001番地の4
電 話 (0877) 48-2191
F A X (0877) 48-3249

印 刷 平和写真印刷株式会社